

平成26年度「未来づくり説明懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月20日（火）午後7時～午後9時
□会 場	白沢区民館
□参加者	町側11人、地区側17人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月7日（水）英比小体育館参照）

3. 「住民税1%町民予算枠制度」について説明（政策協働課長）

わくわくコラボ事業・わくわくアイデア事業について

制度の概要説明及び募集要項に沿った各事業の説明及び応募促進型講座の紹介をする。

4. 地区からの提言・質問事項についての主旨要約

質問①「住民参画の協働のまちづくり」について具体的な施策をどのように実施するのか。
（白沢）

答）阿久比町では、住民参画の協働のまちづくりについて、大字、自治会単位での地域活動の支援や南部小学校区の阿久比南部コミュニティ推進協議会による各種事業、草木小学校区を中心にスタートした総合型地域スポーツクラブアクティブあぐいへの支援をおこない住民の自主的な活動をお願いしています。地域のリーダーや人材育成を目的としたリーダー研修会の開催や、昨年度はまちづくりへの興味、関心を高め、多様な人材が情報交換を行うまちをこれから面白くするためのワークショップ、ムーブメントの起こし方を開催しました。昨年度の60周年記念事業は、今までの行政主導の周年行事から住民が主役で住民が自ら実施する事業に転換し実施しました。また、住民税1%町民予算枠制度によるわくわくコラボ事業、わくわくアイデア事業も今年度3年目になります。

高浜市の小学校区単位によるまちづくり協議会の設立や横浜市の横浜コードと呼ばれる横浜市における市民活動との協働に関する基本方針など、阿久比町の協働推進の明確な指針は現在ありませんが、ご提言いただきました先進地の状況を把握し検討事項の一つに加え、阿久比町における住民税1%町民予算枠制度を活用した協働のまちづくりを考えていきたいと思っております。（総務部長）

関連質問）先ほどの回答について2点確認します。町では、南部と草木の2つの小学校区で推進活動を行っているということでした。町として4つの小学校区で統一した推進活動を行うことについて考えていますか。阿久比町の協働のまちづくりについての協働推進事業は、今年3年目を迎えた住民税1%町民予算枠制度であり、いろいろな面でご紹介して

もらっているが、協働推進の事業は1%町民予算枠の活動のみでそれ以外はないと思われ
ます。また、この会議への参加者数は昨年より減っており、なぜ参加人数が少なくなっ
ているのかを考えてほしい。そのためには、協働のまちづくり協働についての町民の理解が
足りない。もっと積極的に参加者を増やす取組みを行うべきだと感じました。(白沢)

答) 南部小学校区のコミュニティ推進協議会、草木小学校区を中心とした総合型地域スポ
ーツクラブアクティブあぐいを進めています。それぞれのものは、各小学区でやるとい
いのですが現在のところコミュニティ活動は南部小学校のみとなっています。他小学校区で
も立ち上げの働きかけはしたことはありますが、そこまで至っていないのが現状です。ア
クティブあぐいのような総合型地域スポーツクラブも各小学校区でと考えていますが、こ
れも現状は草木だけとなっています。スポーツクラブの場合でも立ち上げたい人がいま
したが、本格的に立ち上げるとい状況には至っていません。本町の協働推進事業は、住民
税1%町民予算枠制度以外の事業がないのはおっしゃるとおりです。協働については考え
方が難しいと考えています。町と住民の方が協働して事業を進めていくのが理想的です
が、先ほども申したとおり本町では協働に対する意識が薄く、依然として町への依存が
高いと考えております。昨年度60周年記念事業でも住民の方に参加してもらおうよう
な事業を行いました。もちろん、住民の方からの提案企画もありましたが、基本的には
町主導で、町民から協力を得て行いました。私は、3月に新庁舎の一階部分について
ろうそくを入れた紙灯籠を並べて形作るキャンドルファンタジーを担当しました。町内
の保育園、幼稚園児に、アグピーの絵を描いた灯籠に色を塗ってもらって、並べ点
灯してもらおうという催しを行い、50組以上の方にお手伝いとして参加してもら
いました。これが協働なのかと言われると町が主導しているところがあり、純然たる
協働かという意見が割れるところがあります。協働を進めるには、意識改革がまだ
本町では進んでいません。提言をいただいた高浜市や横浜市の例を調べました。横
浜市については、とてもしっかりしていましたが、自治体の規模が違いすぎて本
町には合わないかと思えます。高浜市については小学校区を単位としているという
ことで、本町に生かせる部分がありますので高浜市を参考にしたいと思ってい
ます。(総務部長)

要望) 一つ目としては、地方自治体は、その地方に住んでいる住民によって水準が決ま
ると考えています。基本六法の中で地方自治法は大変ユニークな法体系をしている。
先ほど町長が言ったとおり、阿久比町は財政健全を進めています。私もそう思うので
このまま健全財政を維持してほしいと思います。自治法は、罰則が少なく自主財源
を作ることに有効に使える法律でもあります。もう一度、阿久比町の職員みんな
でよく勉強してほしいです。

二つ目は、お願いとして町立図書館の運営についてですが、民間委託という
方法があり採用している団体もありますが、大規模な民間業者に委託することなく
町営のまま進めてほしいです。他市町村には、著名人などが地元
に寄付する寄贈文庫という制度があります。図書館の人に質問をしたら、本町
にはないという回答でした。活字離れが進んでいるので、なかなか手に入ら
ないような貴重な本があれば寄贈という制度を考えてほしいです。

(白沢)

答) 地方自治法についての考え方ですが、地方自治法第1、2条あたりには国と地方自治のあり方が明確に書かれていたと思います。防衛、外交といった国でやるべきことは国主導で、それ以外はできるだけ地方に委ねるというものです。地方分権推進の折りにいくつか改正が行われました。その中で随分と地方独自施策を展開できるようになったことも存じています。では、阿久比町は何をやっているかというところ、大それたことは行っていません。自主財源の確保については、行政財産の余裕がある場所について、今までだと行政財産の目的外使用という面積当たり数百円しか取れなかったものが、入札で使用金額を決められるようになりました。本町では額は大きくありませんが、今まではふれあいの森の自動販売機の設置に関して1㎡辺り数百円であったが、改正のおかげで数十万単位のお金が町の収入として入るようになりました。これはひとつの例ですが、地方としても自主財源を作ることができるように改正が行われているので、本町でも工夫してやっていきたいと考えています。(総務部長)

図書館の指定管理の方法は、民間委託という方法もあり全国的には導入している自治体もあります。本町は、これからも直営の方針です。寄贈文庫の制度ですが、著名人の文庫、個人が集めたものや書いたものを寄贈という形で対応していきたいと思います。また、本町出身者の方の出版物を集めたコーナーを作るなどの検討もしたいと考えています。図書館に今回のご意見を伝え、今後の課題としていきます。(教育部長)

質問②阿久比町の自然環境保全をどのように考えていますか。(白沢)

答) 阿久比町のこの風景は、それぞれの地域の皆さんや農家の方々が一生懸命に田んぼの畦草刈りをし、水路や道路の草刈りや清掃をしている結果できている風景です。山林や竹林でも、皆さんが庭木の手入れをするようにその所有者が手を入れているから今の里山の風景を維持できていると思います。

しかし、現在の農家さんには若い後継者が少なくなっていますので、この風景を維持していくことは困難な状況にあると考えています。今後は、こういった水路や道路の草刈りや山林などの手入れをしたいというボランティアさんと手入れができなくなった山林の所有者さんの交流できる場をつくって、阿久比町の風景が維持できるようにしたらどうかと考えています。(建設経済部長)

質問③通学路の安全対策について、速度制限を厳しくし道路標識も多く設置していただきたい。(白沢)

答) 標識等の設置については、各地区の行政協力員さんから要望書を町へ提出していただき、半田警察署へ要望させていただきます。注意を促す看板の設置については、看板の設置によりかえって道路の見通しが悪くなってしまうことも考えられますので、慎重に行っています。具体的な設置場所の要望があれば防災交通課へご相談ください。(総務部長)

要望) 通学路の安全対策について回答がありましたが、そのことは、普通道路にも当てはまると思います。道路に木の枝がはみ出しているところがあります。実際に、木の枝が落

下して子どもなどがけがをした例があります。そういう落下の恐れがあるものについて、事前に切ってもらふなどの対応をするべきではないでしょうか。また、木の枝が邪魔をして防犯灯の機能をなしていないところが、白沢にも町内の他地区にもあります。そのあたりの対策についても検討してほしいです。(白沢)

答) 防犯灯が、木の枝で隠れて用をなしていないところがあれば具体的な場所を教えてください。地権者と協議するなどして何らかの対応をします。木の枝がはみ出ているところについては防災交通課までお知らせください。(総務部長)

木の枝が道路上にはみ出しているところについては、地権者に枝払いをしてもらうよう依頼しますので建設環境課にお知らせください。(建設経済部長)

質問④下水道を町に移管してもらえないか。移管をするための負担金について具体的に提示してほしい。(白沢台)

答) 白沢台地区の方からは、これまでも下水道の移管につきましてご質問をいただいておりますが、本町下水道事業検討委員会からは市街化調整区域内の汚水処理について合併浄化槽の設置を推進するべきとの提言をいただいております。また区域外流入を許可する場合であっても既設の管を全て新しい管に入れ替えたものを町に帰属する、市街化調整区域に都市計画事業として町費を負担しないなど基本的な方針があり、これらの方針を踏まえまして、概算ですが新設管の布設費、既設管の撤去費、協力金などの費用を算定しました。概算の全体工事は、約5億8,600万円です。内訳としましては、幹線管渠布設工事費が2,000万円、面整備管布設工事として2億8,000万円、既設管撤去が1億4,000万円、上水道移設補償費が約6,100万円、ガス移設補償費が約1,900万円、協力金が2,800万円、その他測量設計費3,000万円、下水道法による認可手続き300万円、台帳整備費500万円です。(建設経済部長)

提言) 金額を聞いてびっくりしました。1戸あたりおよそ300万の負担というのは、高齢化率第3位の団地単独で行うのは無理です。行政が、きちんといかに安く地元が負担できる金額で下水道への接続が行えるか知恵を絞ってほしいです。40年前に団地を切り開いて住んでみたら、大きなお荷物がありまして今までも補修で4,000万使っています。排泄物の処理ができなくなったら困りますし、これからお先真っ暗です。下水道なので公共事業インフラの一丁目1番地として考えてほしいです。そういう重要事項を1地区が、40年間知恵を絞りながら町に迷惑をかけずにやってきたのは評価してほしいです。白沢台だけでなく、同じように下水道の件で取り残された団地が町内にいくつかあると聞いています。同じように住民が不安に思っています。未来づくり、ワクワクどきどきの言葉で若者を誘うのもいいですが、40年間以上懸命に町民税などの税金を納めてきたという経緯がある地区に対しては、是非共に話し合いながら知恵を貸し借りして、今の白沢台の住民が分担できるやり方金額で行えるように協力してほしい。このことは、白沢台区長のメインの課題です。650人の住民が困っているのです。町としてこういう声を無視せずに、こういう提案があるとか、町のマスタープランに今後入れるとか、劣化・設備診断とか行う

とか白沢台に入り込んで一緒になって考えて前向きに取り組んでほしいと思います。(白沢台)

答) 白沢台さんは、市街化調整区域の中の団地ということで町としては前述のとおり下水道事業をどうするか考えた上で、平成22年に民間の方々を含め下水道事業検討委員会を設置し回答提言を受けました。本町では、それに基づいてやってきた経緯があります。その中でも先ほど言ったとおり、調整区域については合併浄化槽設置を推進するべきという提言をいただいておりますのでその提言に従ってもらうのがいいと思います。(建設経済部長)

要望) 有識者の提言は大切であります、その中に白沢台の人はいましたか。一番困っている住民の声を吸い上げていることになっていきますか。私たちとしてはそうなっていると思えません。住んでいる人が、実際に困っている人の声を吸い上げてほしいです。困っている住民を助ける、それが行政の仕事だと思います。立場はあると思いますが、前向きに協力してやっていきたいので、行政の知恵を貸していただきたいです。今日は、金額を聞いて本当にびっくりしました。新しく転居してきて町の下水道にどんどん接続している人々がいるなか40年がんばった人たちに対して、今の扱いはひどいと感じます。何とかして下さるようお願いします。(白沢台)

答) 自治会として、補修して使っているということなので、これから先のことは検討事項とさせていただきます。下水道事業検討委員会の件につきましては、手元にメンバー表がないため詳しいことは分かりませんが、メンバーの半分に調整区域に住んでいる人が入っています。(建設経済部長)

質問⑤循環バスの白沢台停留所について、団地内もしくは団地入口に移動してほしい。(白沢台)

答) 循環バスアグピー号は、少しでも多くの地域に効率よく運行できるよう試行運行期間中にルートやダイヤの見直しなどできる限りの工夫をしてまいりました。

福住園高台、白沢台や阿久比団地は、試行運行前のアンケートでも循環バスの運行について特に要望の多い地域でしたが、それぞれ団地の中までバスを運行するととても時間がかかり所要時間が長くなってしまいます。そのため、それぞれ住宅団地の入口となるところまで歩いて出いただき、そこから循環バスをご利用いただいております。白沢台の東側にお住まいの皆さんには、福住バス停もご利用いただきたいと思います。(総務部長)

質問⑥白沢台より英比小学校までの阿久比川沿い通学路の白線と緑線が消えかかっているため補修をお願いします。(白沢台)

答) ご質問の阿久比川沿いの道路、町道2201号線につきましては、再度調査して消えかかっている部分の白線と緑線を引き直すことを考えています。(建設経済部長)

質問⑦名鉄阿久比駅の階段を改善してください。(メイツ巽ヶ丘)

答) 阿久比駅のバリアフリー化については、エレベーター設置工事や車いす対応のトイレ設置工事の内容で、今年度中平成27年3月31日までの完了予定で、名古屋鉄道株式会社と話を進めています。(建設経済部長)

要望) 阿久比駅のバリアフリー化について、名鉄と国から補助金をもらってできることになり感謝しています。80歳を超えて何とか住みよい安全なまちづくりをしてほしいと考えています。特にこれから高齢者が住みよい阿久比町にするためには大切だと思います。阿久比駅は病院に行く際起点となる駅であり、階段が怖かったからよかったです。(メイツ巽ヶ丘)

質問⑧未来づくり懇談会会場は和室ではなく椅子席を希望します。(メイツ巽ヶ丘)

答) 白沢地区の皆さんの協力をいただき、本日から椅子席にさせていただきました。来年度からもこのスタイルで開催したいと思います。(総務部長)

説明) 本日は早速、椅子の会場にしてほしいという要望を聞いていただいてうれしいです。(メイツ巽ヶ丘)

質問⑨実のある町政を、夢のあるビジョン、若者が町をよくしようとする意欲を持たせるよう考えて下さい。町の活性化、まちづくりに必要なことは何ですか。(メイツ巽ヶ丘)

答) 今年度、新たな阿久比町の建設をめざし、ハード、ソフトの両面から阿久比町の発展を目指します。ハード面においては、阿久比町役場新庁舎及び多目的ホールの建設、東部小学校の校舎増築、阿久比中学校プールの建設、名鉄阿久比駅のバリアフリー化、循環バスの本格運行、高根配水場からの配水開始等多くの事業を行います。ソフト面においては、地域リーダーや人材育成を目的とするリーダー研修会の開催や、住民税1%町民予算制度のわくわくコラボ事業、わくわくアイデア事業も引き続き行っていきます。町の活性化まちづくりには、住民参画と協働のまちづくりが大切だと考えます。(総務部長)

要望) 女性の登用は、どの程度進んでいるのでしょうか。課長などといった女性の管理職をつくってほしいと思います。もう一つですが、今日は社会福祉協議会の人はいませんが、高齢者に対しては包括支援センターなどがありますがコミュニティソーシャルワーカーなどの活用を検討してほしい。行政として地域の障害者、地域で隠れた引きこもりの若者、成年、中年の人たちの援助を社会福祉協議会でやっていただきたいです。(メイツ巽ヶ丘)

答) 現在、女性の部課長はいません。しかし、町では課長補佐以上の職員を管理職として

おり、今のところ保育園の園長、指導保育士が該当しています。女性の部課長はいませんが、人事上のことですので今後、能力・年齢などを考慮して検討していきたいです。（総務部長）

昨年度、地域福祉計画策定のための各種団体ヒアリング及び住民福祉懇談会を開催しました。今年度は、策定年度になりますが、コミュニティソーシャルワーカーなども地域の声として、隠れた人、引きこもりの方々が活性化できるよう住民の皆さんと連携し地域福祉計画の中にも盛り込んでいきたいと思えます。ご提言などありましたら社会福祉協議会にお伝えください。（民生部長）

5. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問) 町長から新庁舎の事業費が新庁舎48億円と聞きました。調達資金は、積立金10億と聞いたが、国庫と県の方からの助成金はどれくらいを予定していますか。（白沢）

答) 新庁舎建設の財源についての質問ですが、先ほど町長が概ね48億円と言いましたが、細かく言うと47億7,000万円です。その中には基本構想、基本設計、実施設計、工事費など全て入っています。財源ですが庁舎建設基金が約11億円、確定している国の補助金1,500万円です。残りが地方債、いわゆる借金が約29億円、一般財源これは財政調整基金からの取り崩しになる訳ですが7億5,500万円ほどです。なお、これからただけそうな補助金があれば申請する予定です。（総務部長）

質問) 自主防災会で活動していますが、風水害は警報などが出て対応できます。地震の際は、震度いくつで自主防災会は行動開始するのですか。町の指針はあるのですか。各自主防災会任せなのですか。（メイツ巽ヶ丘）

答) 震度いくつで自主防災会が活動するかという指針は、町からは示していません。各自主防災会で決めてもらっています。参考までに町の体制としましては震度5の地震発生の場合、何の連絡がなくても職員は集まることになっています。（総務部長）

要望) 私は、農業を営んでいます。百姓は高齢化で弱体化しており、そんな状況でもがんばっている若い人がいる。しかし、先細りは否めません。白沢を例にとってもすごい高齢化で、若者が入りにくい状況で荒れ地が増えています。外から連れてきても良いので、町として米ばかりでなく、農協などと連携して若者が百姓をやっていける、百姓を阿久比でやって良かったと思えるような未来に向けた農業施策の展開をお願いしたいです。（白沢）

答) 難しい大きな日本の問題です。TPPの問題等につきましても、これからますます大変になる気がします。国の制度を使ってがんばっている草木や板山などの地区があります。そのほかの地区につきましても、いろいろな補助金があるので活用していただけたらと考えています。しかし、補助金だけでは何とかなるものではなく、日本の社会情勢において

農作物を作るという点において、日本人自身根本的に考えを変えないといけない難しい課題と考えます。今、政府が進めている制度的なものでは、法人が農地を持てるようにする方向性があります。近くでいえばデンソーが、農作物を作る分野で研究の技術を進めています。他の企業も技術開発を進めています。今の価格帯では、これからは安い外国産には勝てないと考えます。お米を例に挙げると、お米の直蒔きをして少し値段を下げてもらうようもなくなる状況になるということです。農地保全に関しては、大きくいえば国土の保全につながります。農作物を作る、作らないは別にして、農地保全は地権者で進めたいと思います。町としてこれから農業、農地に対してどうするかは重い質問ですが、一町単独でできるようなものではありません。今JAの改革が始まっており、貿易の自由化は、待たなしで来るものですから加速度的に進めないといけないと思います。絶えず担当課では、アンテナを張ってどのような形で進めていったらいいのか農業委員会等も含めて考えています。農業に関しては、国が制度を大きく変えてきます。今まででも変え過ぎるくらい変えてきました。わたしたちもついて行くのに精一杯の状態です。阿久比にあったものを自然と共生していく、自然環境を守りながら若者にとって利便性の良いまちづくりを進めるようがんばります。(町長)

提言) 循環バスの運行動機は、高齢者対策、交通弱者対策で始めたのではないですか。そういうことであれば、町が運営する循環バスは、正確に時間通り走るというよりも利便性、お年寄りが使いたいと思えるものにしてほしいです。高齢者対策を先取りしているようなすばらしい施策であるので、お年寄りが使いやすくすればもっと利用が増えると思います。白沢台の停留所は、実際に行ってみました。が県道に面して交通量が多く怖いです。坂部駅の乗り場みたいのところだといいたいです。循環バス事業は、正確性を求めているのか、利用者の使いやすさを求めているのか、少しずつ利用者が使いやすい方向を目指して事業をかえてほしいです。このことを提言します。(白沢台)

答) ご提言をいただきましたので、今後検討したいと考えます。今現在は、どの地区も幹線道路に出てもらっています。いろいろな地区で中まで入ってという要望もありますが、全ての要望を聞くと今の倍時間がかかることになります。現在、各ライン一周に1時間半かかります。もっと台数を増やすなどの要望がありますが、そうすると予算も膨らむことになります。今の試行運行を進めるなかで現在のように運行していこうとすると、現ダイヤ、ルートがベストであると考えています。当然、見直しの際には提言を参考にしたいと思います。(総務部長)

提言) 一点目は、行政評価ホームページから政策協働課に行政評価シートがもらえないかという要望をしました。未だに回答もありません。以前、同じように社会福祉協議会に問い合わせたら、1時間後に電話が来ました。あまりの早さに驚きました。行政評価について勉強をしていてデータがほしいから連絡をしたが、未だに返答がないのは残念です。事業仕分けなどは華やかに行われているが、行政評価についてはあまり表に出てきません。実際には、私たちの生活に密接した役場の人や自分の事務内容の事業を見直し、無駄や落ちがないかなどを客観的に評価するすばらしいシステムである。他の市町

村でも導入されており、もちろん阿久比町もやっています。残念ながら公表に関しては、ダイジェスト版がホームページ上で閲覧できるのみです。阿久比町は、見るところによると定量的評価でなく、定成的評価をしているのではないかと感じる場所が多分にあります。定量的評価A B C Dランク付けなどで評価しているとは思いますが、その辺の評価シートがホームページ上では確認できないので残念です。政策の窓口で公表しているということになっているが、役場に行くのも手間がかかるし、コピーにもお金がいるので、武豊町がやっているように評価シートもホームページでオープンにしてほしいです。

二点目は、同じく行政評価の仕方についてです。阿久比町は、内部評価で、事務担当者が自分の事務を評価し、上司がさらに評価するという形式を取っていますが、はたしてそれが客観的な評価かという疑問が残ります。名古屋市は外部評価をしています。内部評価の結果を公開の場で評価しています。そのやり方は、評価の際、無作為に30人有識者を呼んで公開評価するというものです。そして、その公開評価を評価判定員に最終的な評価してもらうという形式を取っている。こういう評価を是非参考にしよるよりよいまちづくりをしてほしい。(メイツ巽ヶ丘)

答) いただいたメールは、課内で回覧し私のところには来ています。おっしゃられたとおり本町においては、ダイジェスト版はありますが個々の評価シートについてはホームページでは閲覧できません。まだ、武豊町さんのように個々のシートをホームページに載せていません。個々のシートが、すぐに欲しいということでしたが加工するなど時間の都合上、すぐ返事できず申し訳ありません。公開自体はしているので役場に来てもらえればお見せすることができます。できれば個々のシートもホームページ上で公開の方向で検討したいと思います。(政策協働課長)

阿久比町では、内部評価のみで外部評価は行っていません。行政評価の導入の時に外部評価も検討はしましたが、阿久比町のような小さいところで導入している自治体はほとんどありません。外部評価となると、外部のコンサルタント会社や大学教授に頼むことが多いそうです。そうすると予算がたくさんかかります。阿久比町が内部評価にすることにした経緯は、自己の事務を評価するに当たって自分の業務を見直すことを第一の目的でスタートしました。自己評価することで、事務の行い方やお金の使い方等いろいろ振り返るいい機会となります。特に若い職員から良かったという声も届いています。今のところ特に問題はないので、このまま内部評価で続けていきたいと思います。(総務部長)

提言) できないということではなくて、客観的に評価することも大切であるので、今の評価の仕方を工夫してはどうかと考えます。名古屋市のまねでなくあくまで参考として阿久比町独自の外部評価のやり方を作っていく方向で考えてほしいです。そのために住民の意見を聞いて行政に反映するこの未来づくり懇談会であるのではないですか。(白沢)

答) ご提言と他の市町のやり方を勉強して検討していきたいと思います。(総務部長)

提言) 白沢地区に対する回答では、協働の考え方は難しい、意識改革が不足のため行政依存の考えが多いということでした。これに対して南部と草木の小学校区の取組みを紹介し

ていただきました。できましたら4小学区でコミュニティ協議会を作って、行政としてテーマをしっかりと立てたものを提供し、各地区で協議できるようすることも1つの方法ではないでしょうか。今回の懇談会は、地区要望の懇談会という印象を受けましたので、阿久比町の未来をつくる懇談会としてほしいです。(白沢)

答) 最後におっしゃられたように私たちもこの懇談会を、阿久比町の未来づくり懇談会にしたいと考えていますし、そうすることを望んでいます。地区に回ることが少ないですから、このように地区からの意見、要望を聞くという形を取らせていただいております。以前に比べれば、少しずつ質問内容も変わってきていると感じています。白沢さんからの協働ということに関する質問ですが、協働の位置づけとしては平成22年度に作った総合計画の柱の一つとして参画と協働を挙げたわけです。私の考えでは、もう行政だけでまちづくりはできないと考えています。具体的に何から始めるかという町民全部に関わる問題で、防災、自主防災会ではないかと考えました。当時、自主防災会の名簿を見ると、災害時に動けないような体制の組織でありました。それを私たちは新自主防災会という言い方に変え、防災委員を作り構成員が毎年変わるのではなく最低3年在籍してやるというように変えてきました。そして、それを全23地区で行いたいという思いがありました。年数はかかりましたが、ようやくこの体制が整いました。今年は、火消し隊というものを提案し、モデル地区を作って自主防災会の中に組織したいと考えています。まもなく公表される愛知県の最新地震被害予想は、本町は津波の被害はありません。しかし、倒壊、火災被害が多く予想されます。死者は、200人が想定されています。そこから考えて、地震火災に力を入れようという試みで始めています。協働の自主防災、火消し隊を4学区でやってほしいと考えています。コミュニティ推進協議会に関しては、南部コミュニティは、創立から30年以上経ちますが実際は機能していない状態です。しかし、今からは字ではなく学区単位の動きが必要となるので、阿久比町も力を入れています。現在、東部学区でコミュニティ推進協議会を作ろうという動きがあります。草木は1字で1学区ですので、コミュニティを持っているということになります。東部学区ができると残るは英比学区だけということになります。英比学区は、面積も広く人口も多いですが、消防団第2分団は、団員6人という団員不足という問題も抱えています。このままだと災害時は、英比学区の分団は動けない状況が現実です。地区の方々にこの問題をどうするか、このままでいいのかを話し合ってもらいたいと考えています。本日、日赤の総会があり、班長、副班長しかいないところもあり、地区によって色合いがあると感じました。町としてリードする役割がもちろんあります。しかし、自分たちの町は自分たちで良くしようという住民の意識の高まりが必要です。高根台は、防災では高い意識、体制を持っている。自分のところに水はないから、自分たちで何とかしないといけないという意識があり、活発な活動と要望があります。そうやって動き始めることが大切だと考えます。町もできる限りのことはさせていただきますが、とにかく職員も住民の方も意識をどのように持つかが大切です。アメリカへ行ってわかったことは、幸せに暮らすには一人では生きていけない、社会のルールに添うこと、みんなでやっていくんだという協働という意識がまちづくりでは重要だと改めて感じさせられました。そのような考え方でまちづくりを進めていきたいと考えていますので、皆さまご協力をお願いします。(町長)

6. 閉会あいさつ

本日は、貴重なご意見、ご提言をいただきありがとうございました。なかなかご理解いただけるような回答ができなくて申し訳ないと思いますが、一つでも今後の町政運営に反映できるよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

以上で、平成26年度未来づくり懇談会白沢地区を終了します。(副町長)